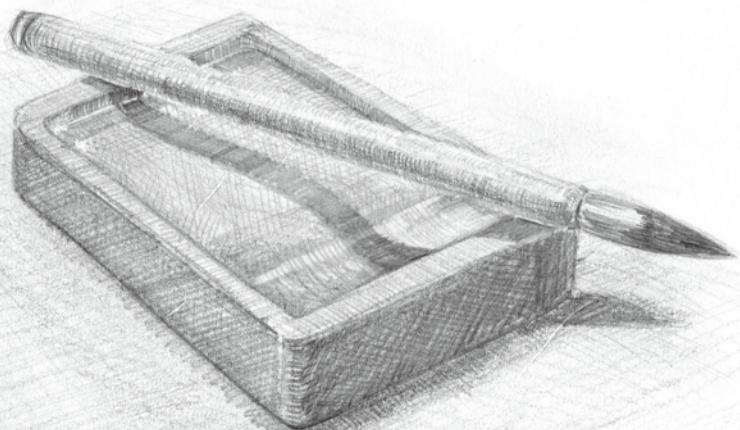


心のしるべ

題字 融通念佛宗 法主

『広げよう 融通の輪を
深めよう 念佛の心を』



「父の温もり」

真面目で仕事一筋だった父は、私が小学生の時、突然四十歳でこの世を去った。今年の誕生日で私も四十歳になる。不惑の歳といわれるが、日々の忙しさに疲れ、惑うことばかりである。

先日、本棚で埃をかぶっていた本に優しく笑う父に抱っこされた私が写った写真が挟まっていた。裏には「雪の宿にて」とだけ書かれている。母に聞くと、父が亡くなる一年前、新潟の越後湯沢で撮ったものらしい。それはどうしても家族みんなで行きたいという父の希望で実現したそうだ。父は学生時代、冬になると湯沢の旅館でアルバイトをしていたらしい。私は写真を見て以来、どうしてもそこを訪ねてみたく旅の人となった。

しかし、その旅館はすでに無かった。写真の場所は、旅館の裏庭だったが、当時を偲ぶものはなにも残っていなかった。少し落胆していた私は、帰りは高崎までゆくり上越線に乗ることにした。途中、乗り換えの電車を待つ間、ベンチの隣に座ったおばあさんがミカンをくれた。自分の家で採れたもので、これから孫のところを持っていくそうだ。おばあさんと別れ、再び電車に乗り、旅を続けた。ミカンを口に含むと、甘い味が広がった。車窓から見る風景すべてがなぜか懐かしくて暖かい。窓に映る自分の顔と父の顔が重なって見えた。そして、父に抱っこされた時の温もりが蘇ってくるようだった。

父の面影を追った旅は、人の温もりと優しさにふれる旅となった。亡き父の導きだったように思えた。

先師遷化す せんげ

肉猶お煖かなり な あたた

安国慧球 「景德伝灯録」

「先師」とは教えを受けた人。「遷化」とは

亡なほなり。

「肉猶お煖かなり」とは教えは続くと言う

意味。

写経会

毎月 26 日

午前 10 時より午後 3 時まで

写経道場 白雲閣 1 階大広間

こころの杖を求めて

定例布教

毎月 26 日 午後 1 時半より
(但し、26 日が日曜日の場合は 27 日)

布教道場 瑞祥閣

融通念佛宗 総本山

大念佛寺

〒547-0045 大阪市平野区平野上町 1-7-26

J R 大和路線平野駅下車 南へ徒歩 5 分

TEL 06-6791-0026 (代)

ホームページ <http://www.dainenbutsuji.com/>